

本校の平成31年度全国学力・学習状況調査及び県調査結果の公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査、その他は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、今年度から国語、算数(数学)共にこれまでのA問題、B問題の区別なく「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題調査となりました。また、今年度は、中学3年生において、3年に1度の英語の「話すこと」調査も実施されました。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

なお、武雄市教育委員会では、学校ごとの調査結果をまとめて、市のホームページで公表しておりますので、併せてご覧ください。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学	73.6		68.0	
現 5 年	(1.13)		(1.04)	
H26 入学	66.8	69	70.8	64
現 6 年	(1.00)	(1.08)	(1.00)	(0.97)
H31 正答率の全国比		(1.08)		(0.96)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 5年は、国語、算数とも県平均を上回っている。国語においては、話す・聞くと書く領域は県平均よりも10%以上正答率が高く、スピーチや日記指導などの成果が表れている。一方、読む領域は、正答率が県平均を2.7%上回ってはいるものの、物語文の読み取りに課題が残った。登場人物の行動や気持ちの変化をとらえることができていない児童が多くいた。  
算数においては、数と計算の領域に課題が残った。わり算の筆算や計算を根拠とし理由を説明することができていない児童が多くいた。一方で数量関係の領域は、正答率が県平均を7.7%上回っている。( )を用いた式の計算やグラフの読み取り、四角形の周りの長さの説明などの問題の正答率は9割と高く、具体物やICTを活用した学習の成果だと思われる。
- 6年は、国語では、全国平均を8%上回り、算数は、4%下回った。国語においては、言語についての知識・理解・技能で、正答率が全国平均を9%上回っていた。特に、漢字の正しい使い方や接続詞の使い方が高い正答率であった。また、話すこと・聞くことの領域は、正答率が全国平均を5%上回っていた。話し手の意図を捉えながら聞いたり、質問したりする問題での正答率が高かった。一方で書くことの領域は、正答率は全国平均とほぼ同じであるが、目的を捉えて書く問題や理由を明確にまとめて書く問題において正答率が低くなっていた。  
算数においては、数学的な考え方で、正答率が全国平均を下回っていた。特に、資料の特徴や傾向を関連付け理由を記述する問題や、場面の状況から求め方を記述する問題での正答率が低くなっていた。自分の考えを整理し記述することに課題が見られた。
- 意識調査では、5・6年ともに、9割以上の児童が「友達に会うのは楽しい」と答えている。また、ほぼ9割の児童が、地域の行事に参加している。これらの質問項目は、県・全国平均を上回っているよい結果であった。また、6年生では、「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」の質問でともに全国平均を上回っていた。朝読書の取り組みや、毎週行っている新聞スクラップの取り組みの成果だと考えられる。一方で、「授業中の発表の意欲があるか」「発表の工夫をしているか」の質問では県・全国平均を下回っていた。また、6年生では、授業での解き方・考え方をノートに書くことに関して、約29%があまりできていないと答えるなど課題が残った。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 全ての教科領域において、1時間の授業のはじめに、話の聞きく時の態度や話し合いの心構えである「共感力のものさし」の意識付けを行い、児童が協働的な学びへ向かえるよう全職員で取り組む。
- 2 「友だちタイム」において、以下の点を強化する。
  - ・協働的な場面において、ICT機器を利活用し、児童の考え、認識、姿のギャップを視覚化し、対話へつなげる手立てを取り入れる。
  - ・論点を明確にするために、比較、分類、関連付けできる課題を提示する。
- 3 学習の最後には、振り返りを書くようにする。その際、振り返りのポイントを提示し、協働的な学びの場での対話を通して、分かったことや考えたこと、自分の考えの変容や新たな発見などを言語化し、学びを深め次の学習へつなげられるようにする。
- 4 物語文の学習では、登場人物の行動や情景描写などの表現を手掛かりとさせ、その時の心情をとらえさせる。
- 5 算数では、自分の解き方・考え方について、根拠を基に伝えたり、ノートに書き表したりする場面を意図的に増やす。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 花まるタイムや思考力を培うなぞペー授業の効果も伺えた。さらに、児童の学習の定着状況に応じて、サボテンの教材だけでなく、担任作成の教材を活用し、弱点の克服を行う。
- 2 意識調査より「地域の行事に参加している児童」は85%以上で、県の平均を10%以上上回る結果を出している。また「朝食を毎日食べている児童」は、100%で、このことから、家庭や地域の教育がしっかりしていることが伺える。全校朝会や保護者会などでも、このような良いところも紹介することで、児童の自己肯定感や保護者の意識をより高めていく。
- 3 家庭学習については、全職員で宿題の量や質、自主学習の内容などの共通理解を図り、発達段階に応じた学習時間を確保させる。内容や量については、ICT機器やドリル、プリント等を活用し、個別に補充指導をとりながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。調査の設問別到達状況において習得できていない内容や児童が苦手としている内容についても、日頃から繰り返し復習させていく。
- 4 家庭学習強化週間を年3回設定し、自主学習の良い例と家庭学習に意欲的に取り組んだ児童を紹介することで自主学習を推進していく。
- 5 児童に、今回の調査結果に見られる成果と課題を知らせ、学力向上に向けて、今後どんなことに気をつけて学習に取り組めばよいか、個人で目標を立てさせる。